令和元年度　かほく市立七塚小学校　学校評価計画書

	重点目標	具体的取組	主担当	現　　状		評価の観点	達成度判断基準	判定基準 （A＋Bの割合で評価）	調査対象 調査時期
1	確かな学力の育成と外国語教育の充実	★① 国・算・英の3教科を校内研究の核とし，若手教員早期育成プログラム等，日常的なOJTで教師の授業力を向上させる。	指導研究 （赤池） 指導力改善 （北川） 若プロ担当 （川崎）	・3教科を軸に深めの発問を研究していくことで，付けたい力がより明確になってきた。 ・家庭学習の定着については，昨年度は前期95%，後期92%とA評価ではあったが依然として個人差が大きい。 ・「まなびぃず」を生かす等，楽しく学ぶ授業づくりを通して，主体的に学ぶ力を育成していかなければならない。 ・リーダーを中心にニーズに合った日常的なOJTを行い，着実に授業力向上を図っていかなくてはならない。	満足	S：学校での勉強は分かりやすい。	A：よくわかる B：だいたいわかる C：わからない時がある D：わからない	A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	全児童 7･12月
					満足	P：子どもは，授業が分かりやすいと言っている。	A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	全保護者 7･12月
					成果	S：学年に応じた家庭学習時間が定着している。	A：週7日 B：週5日以上 C：週3日以上 D：週2日以下	A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：72%未満	全児童 7･12月
					成果	S･P：自分で計画を立てて勉強している。	A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	全児童 全保護者 7･12月
					努力	T：指導力向上のために積極的にアドバイス・指導をしている（受けている）。	A：よく取り組んでいる B：取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全教員 7･12月
		② 学力向上ロードマップを実働化させ，学力調査等検証をもとに授業改善を図る。	集計･分析 （加納）	・学力向上総括部（4チームのリーダー）で，ロードマップの横の連携が図れるようになってきた。 ・学校研究をもとに，検証を生かした授業改善を組織的に進めていく必要がある。	努力	T：学力調査結果の分析を，各教科の単元構成やあっぷUPタイムに位置づけて学力向上に取り組んでいる。	A：よく取り組んでいる B：取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全教員 7･12月
			指導研究 （赤池）		努力	T：研究の重点である「考えたくなる課題」「考えを深めるための工夫」のある授業を構築しようとしている。	A：よく取り組んでいる B：取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全教員 7･12月
		③ 外国語教育の全面実施を見据え，「話す・聞く・読む・書く」力を計画的に育成する。	外国語担当 （諸江）	・学校全体としての共通した取組が十分ではなかった。英語アシスタントとも連携し，全教員が共通理解しながら，コミュニケーションの素地を養うような活動や指導を積極的に取り入れていく必要がある。	満足	S：外国語活動に楽しく参加している。	A：とても楽しい B：楽しい C：あまり楽しくない D：楽しくない	A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	全児童 7･12月
					努力	T：英語アシスタントと連携し，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養う指導に主体的に努めている。	A：よく取り組んでいる B：取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満 A：100%	全教員 7･12月
2	いじめ・不登校や問題行動の未然防止と心の教育・特別支援教育の充実	★① 授業の中に生徒指導の3機能を生かし，一人一人の居場所づくりを保障する。	生徒指導 （諸江）	・前年度後期96%の児童が「学校は楽しい」と感じていた。 ・100%の児童が「楽しい」と感じる学校づくりにしていくために，学校全体で生徒指導の3機能を理解し取り組めるように努めていく必要がある。	成果	S：毎日学校へいくのが楽しい。	A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全児童 7･12月
					成果	P：子どもは学校へ行くのが楽しいと言っている。	A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全保護者 7･12月
		② QU調査やいじめアンケートを活用し，問題の早期発見・早期対応を心がける。	生徒指導 （諸江）	・隔月，いじめアンケート・ハートチェック・個人面談を実施し，児童の思いを聞き取り，問題の早期発見・早期対応に努めている。 ・前年度いじめをいけないと思う児童の割合を増加させることができた。 ・昨年度いじめの事例を見逃してしまった。よりアンテナを高く張り，児童の様子を観察し，組織的に対応していくようにする必要がある。	成果	S：いじめはどんな理由があってもいけないと思う。また，いじめをしていない。	A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全児童 7･12月
					成果	P：学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる。	A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	全保護者 7･12月
					努力	T：いじめの未然防止や早期発見・早期解決に努め，敏速な対応をする。個人カードを活用した指導を継続する。	A：よく取り組んでいる B：取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全教員 7･12月
					成果	S：Q－U調査からの実態把握 【学級満足群の割合】		A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	3～6年 5･10月
		③ 児童を認める温かい働きかけを大切にし，児童の気持ちを受容しながら指導・支援する。	生徒指導 （桝田）	・昨年度，不登校児童は2人であった。 ・児童理解の会やSCとの連携により，学級や個人の様子についての共通理解は概ね図られている。 ・前年度後期「自分にはよいところがある」と思っている児童は87%であった。 ・生徒指導の3機能を生かして授業を行い，自己肯定感や自己有用感を高める必要がある。	成果	S：自分にはよいところがある。	A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	全児童 7･12月
					努力	T：児童のよいところを見つけたり気づいたりできる指導をしている。	A：よく取り組んでいる B：取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全教員 7･12月
					努力	T：生徒指導の3機能を生かして授業を行っている。	A：よく取り組んでいる B：取り組んでいる C：あまり取り組んでいない D：取り組んでいない	A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	全教員 7･12月

3	児童生徒の体力・運動能力の向上と食育の推進	① 県教委の「体力づくり1校1プラン」やスポチャレをもとに，全校で体力アップに取り組む。	体力づくり （清水）	・全校で取り組むよう働きかけたことで，スポチャレに取り組む児童の意識が昨年度98%に向上し，上位に入賞するクラスも増加した。 ・週に1回はスポチャレに取り組んでいく。	努力	S:「スポチャレいしかわ」に頑張って取り組んでいる。	A:よく取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全児童 7･12月
					成果	「スポチャレいしかわ」でのチャレンジ部門・ベスト部門の結果		A:20位以内8クラス以上 B:20位以内6クラス以上 C:20位以内4クラス以上 D:20位以内2クラス以下	全担当者 毎学期
		② 自らの身体や命を大切にしながら健康や体力を増進する健康安全教育の充実を推し進める。	保健安全 （岡田）	・訓練の際，火災や地震など状況に応じた行動を取れる児童が増えている。しかし，真剣みに欠ける児童もいる。 ・教師はマニュアルを基にした訓練に慣れてきたが，臨機応変に判断・指示する訓練はあまりできていない。	努力	T:避難訓練を通して，事故回避の安全な行動がとれるように指導している。	A:よく取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7･12月
					満足	S:自分の身を守るために考え，行動できるようになっている。	A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	A:１００%以上 B:80%以上１００%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 避難訓練 後
		★③ 学校保健委員会を中心に家庭と連携を図りながら，基本的な生活習慣を培う。	保健安全 （松田）	・「早寝早起き朝ご飯」に取り組んではいるが，生活習慣の改善が必要な児童は，どのクラスにも複数名いて改善が難しい。 ・昨年度PTA研修部を巻き込んだように，家庭への啓発を更に工夫し，家庭と連携した指導が必要である。	成果	S･P:毎日，朝ご飯を食べている。	A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全児童 全保護者 7･12月
					成果	S:寝る時刻を守っている。	A:毎日守っている B:週６日守っている C:週５日守っている D:週４日以下守っている	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 毎学期
4	新学習指導要領に対応した教育環境の整備	① 新学習指導要領を「学びの地図」と位置づけ，教科横断的な視点で教育課程の実施を図る。	教務主任 （加納） 指導研究 （赤池）	・週案をもとに学年で教育課程の管理や調整ができるようになってきた。 ・年間指導計画をもとに教科での学びを全教育課程につなげていく教員のカリキュラムマネジメント力の向上が必要である。	努力	T:教育課程の実施内容・進度・時数の管理や調整を適切に行っている。	A:よく取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全職員 7･12月
					成果	T:教科横断的な視点で教育活動を位置づけることができた。	A:学期に3回以上 B:学期に2回 C:学期に1回 D:取り組むことができなかった	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全職員 7･12月
		★② 地域の人・物・事の教育資源を積極的に開発し，ICTを活用して教育活動を深化充実させる。	CS事業担当 （加納） 情報教育 （土田）	・教科や総合的な学習の時間の中で，地域人材による授業や体験活動を各学年が工夫し行うことができてきた。 ・地域のよさを感じ，大切にしていきたいという思いは育ちつつあるが，他者と関わり合う力が弱い児童がいる。 ・ICT活用については教員の力量差が大きいため，本年度も若プロで研修を行い，ICTの活用力を向上させる。	満足	S:学校の先生以外の人（ゲストティチャー）と勉強するのはためになる。	A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7･12月
					成果	T:地域人材を活用した授業や体験活動を行っている。	A:学期に3回以上 B:学期に2回 C:学期に1回 D:取り組むことができなかった	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7･12月
					努力	T:ICTを活用した授業を行っている。	A:よく取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7･12月
		③ コミュニティスクール事業を効果的に活用し，社会に開かれた学校づくりに努める。	教務主任 （加納）	・コミュニティ・スクール事業が4年目を迎え，学校でも地域でも取組が浸透してきた。 ・将来の夢や目標を持っている児童は91%と増えてきている。 ・地域のよさを学んだり誇りを持ったりしながら自分の夢や目標に繋がる学習活動を積極的行い，HP等で啓発することで，保護者・地域の協力を更に活用していく。	満足	S･P:将来の夢や目標を持っている。	A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7･12月
					成果	T:学校での取組の様子をより多くの方に知ってもらうために定期的にHPを更新している。	A:月２回以上 B:月１回以上 C:学期に1回以上 D:取り組んでいない	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 毎学期
					成果	P:学校は便りやHP等で学校の指導方針や子ども達の様子などをわかりやすく伝えている。	A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7･12月
5	教職員の働き方改革の推進	① 会議や行事の精選・効率化を図り，子どもと向き合い，教材研究する時間を確保する。	教務主任 （加納）	・今学期は，会議の時間を1時間以内に終了できるよう効率化を図っていく。	努力	T:会議の効率化を図り，子どもと向き合い教材研究する時間を確保している。	A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7･12月
		② 教師の意識改革を図るとともに，PTAやおやじの会等，外部とも連携していく。	CS事業担当 （加納）	・学校CNを活用したり取組をスリム化したりできるようになってきた。 ・活動が前例踏襲にならないよう教員の意識改革がさらに必要である。	努力	T:授業や取組の無理と無駄を省いていくように努力している。	A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7･12月
		★③ 学校評価の重点として項目を設け，継続的に評価・改善を行う。	教頭 （榎）	・職員一人当たりの時間外勤務の平均は47.25時間であった。80時間越えの職員も月平均4.4人と全体の１/４程である。	成果	T:一人あたりの勤務時間月平均を昨年での10%減を目指す。	A:10%減 B:５%減 C:昨年度と同様 D:昨年度より増加	A:10%減 B:５%減 C:昨年度と同様 D:昨年度より増加	時間外勤務調査 7･12月
				・昨年度，市教委資料配付やPTAへの啓発を重ねることで，保護者には浸透しつつある。学校評価に位置づけることで，保護者への意識づけを更に高めていく。	努力	P:県や市の方針を理解し，教職員の本務である児童の教育に向き合う時間を確保できるように協力している。	A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:60%以上70%未満 D:60%未満	全教員 全保護者 7･12月

携行